

国際生化学・分子生物学連合 International Union of Biochemistry and Molecular Biology (略称 IUBMB)

IUBMBの目的

世界の生化学分子生物学に関する学術と教育を推進し社会に貢献する

- 研究者の多彩な交流を推進する
- 民族、分化、性、経済などの違いを越えてネットワークを形成する
- 若手研究者が各自の能力を最大限に発揮できるキャリアパスをつくる
- 公共政策に関してエビデンスに基づく助言を提供する
- 科学の価値、水準、倫理を推進し、全ての国で科学者による自由な活動を推進する
- 多様性と包摂性を高めていく

主な活動

- 世界各地にて3年毎に大会を開催し学術交流を促進する
- SDGs目標の一つである「教育」に関して、若手研究者の旅費等を支援する
- 若手研究者を対象とするWhelan Young Investigator Award等により支援する

体制

- 1955年結成、79カ国・地域が参加
- プレジデント Alexandra Newton (米国)

HP <https://iubmb.org/>

日本の貢献

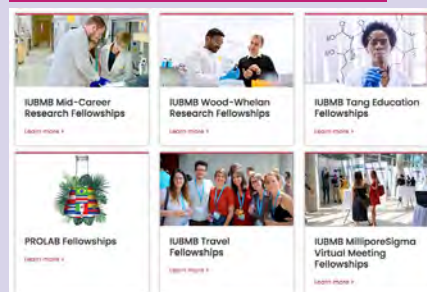
- 歴代日本人プレジデント
早石修教授、八木国夫教授
- 1967年第7回国際生化学会議 (IUB大会)
会頭赤堀四郎教授
- 2006年第20回IUBMB大会を京都で開催
会頭本庶佑教授 (2018年ノーベル医学生理学賞)
プレナリーレクチャー大隅良典教授 (2016年ノーベル医学生理学賞)
- IUBMB冠レクチャーを開催
Osamu Hayaishi Lecture, Kunio Yagi Lecture
Takashi Murachi Memorial Lecture

定期刊行誌

- 国内研究者が編集等に貢献



各種フェローシップ



大学院生アンバサダーによるSNS発信

